

トビウオ通信 (2月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 17 年まき網漁業の動向》

今月号は島根県における中型まき網漁業(15ヶ統)の平成17年の動向を振り返ります。

漁獲量、水揚金額ともに前年を下回る！

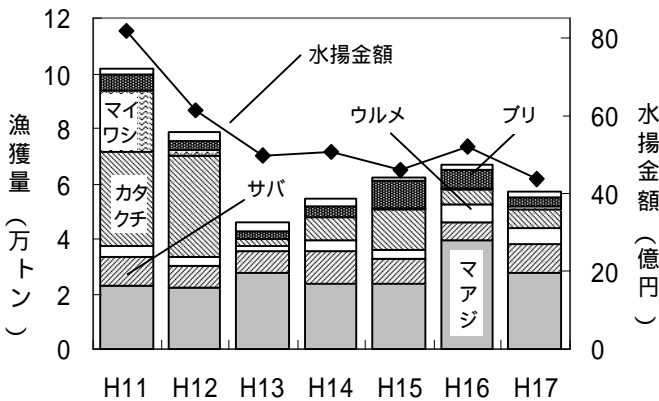


図1 島根県の中型まき網における魚種別漁獲量と総水揚金額の変動

魚種別漁獲量と水揚金額の動向

平成17年の島根県の中型まき網による総漁獲量は5万7千トン(属人統計、以下同様)で前年の86%、平年(過去5年間平均)の93%となりました。総水揚金額は43億7千万円で前年および平年の84%となりました。近年の魚種別漁獲動向(図1)を見ると、中型まき網の総漁獲量は、マイワシ、カタクチイワシの不漁により過去最低の値となった平成13年以降は、ブリ類やマアジの増加により回復傾向にありました。しかし、平成17年はマサバの漁獲

量が増加(10,421トン、前年比150%)したものの、主力のマアジの漁獲量が2万7千トンと前年を1万2千トンも下回った(前年比70%)ことや、ここ2年好調であったブリ類の漁獲量が減少した(3,236トン、前年比48%)影響により、前年を下回る結果となりました。水揚金額についても平成13年以降は横ばい傾向にあったものが、平成17年は再び減少して近年での最低値を記録する結果となりました。

隠岐地区はマアジ不漁もサバ類が好調！

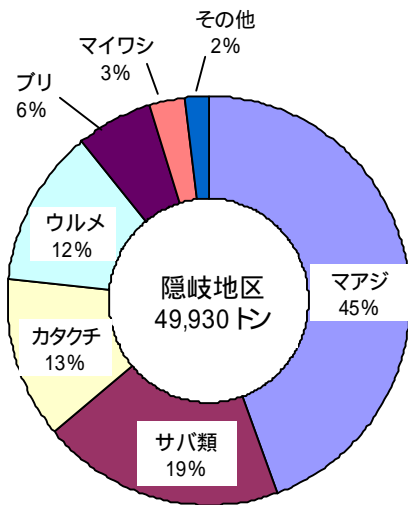


図2 隠岐地区の中型まき網における魚種漁獲割合(H17)

図2と図3に隠岐地区(10ヶ統)および浜田地区(3ヶ統)の平成17年の中型まき網における魚種別の漁獲割合をそれぞれ示しました。隠岐地区ではマアジが前年の6割程度と振るわなかったものの、サバ類が前年の約1.7倍と好調だった他、イワシ類も前年並みもしくは前年を上回る漁獲があり、総漁獲量は49,930トンで前年の86%、平年の99%となりました。

浜田地区はマアジ資源に依存！

一方、浜田地区ではマアジは平年および前年並みの漁獲がありましたが、サバ類やイワシ類が不調であり、総漁獲量は6,085トンで前年の88%、平年の75%と低調となりました。両地区の魚種組成を比較すると、隠岐地区が比較的多くの種類の浮魚類を漁獲しているのに対して、浜田地区ではマアジ単一種への依存度が高いと言え、今後のマアジ

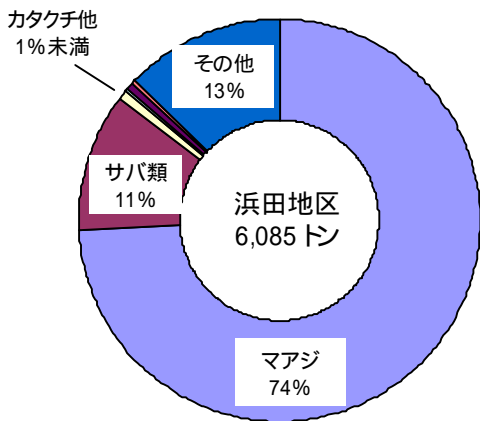


図3 浜田地区の中型まき網における魚種別漁獲割合 (H17)

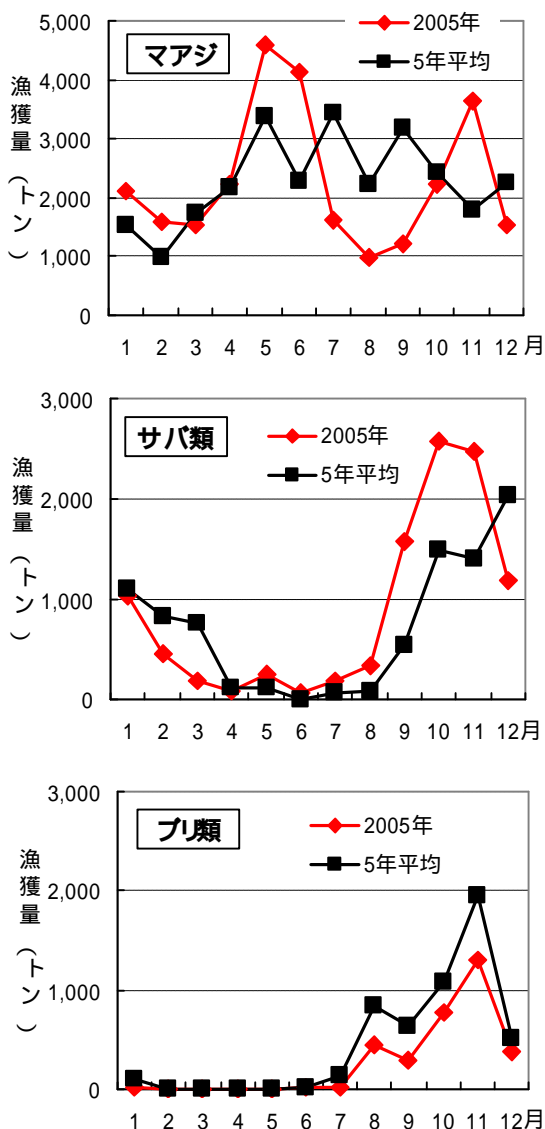


図4 島根県の中型まき網における主要魚種の月別漁獲量の推移

の資源動向が気になるところです。

主要魚種の月別漁獲動向

図4に平成17年に水揚金額の多かったマアジとサバ類およびブリ類の月別漁獲量の推移を示しました。

マアジは5,6月は尾叉長18cm前後の1歳魚(H16生まれ)を主体にまとまった漁獲がありましたが、夏季には平年の半分程度まで減少しました。その後10月以降県東部を中心に再び増加傾向となったものの、11月後半からは記録的な時化続きの影響で年末にかけて漁獲は低調となってしまいました。

マアジの当歳魚については水産試験場が島根沖で実施した中層トロール調査結果から加入量が多いと推定したものの、秋季以降の当歳魚の漁獲は逆に前年を下回る結果となりました。当歳魚の来遊状況が当初の予測と異なった理由としては、調査を実施した6月は冷水塊の影響により稚魚が沿岸域に偏って分布していたため、調査を実施した沿岸域での稚魚の分布密度が高く推定値が過大になったと思われます。

マサバは9月以降県東部で当歳魚(H17生まれ)、1歳魚(H16生まれ)を主体に平年を大きく上回る漁獲があり、好調に推移しました。

ブリは、平年と同様に8月以降秋季にかけて県東部を中心に漁獲されましたが、好漁だった昨年、一昨年程の漁は無く、全体の漁獲量は平年を下回りました。

今後の漁況予測

マアジの今後の動向は、これまでの当歳魚の漁獲状況から1歳魚の漁獲は前年を下回る可能性が高く、2歳魚についても資源水準が前年程高くないことから、今年前半の漁獲量は前年を下回ると推測されます。

マサバについては当歳魚の資源水準は東シナ海～日本海西南海域においては、前年よりやや低いと推定されているものの、1歳魚の資源水準は前年をやや上回ると推定されていることから、今後の漁獲量は前年並みになると推測されます。

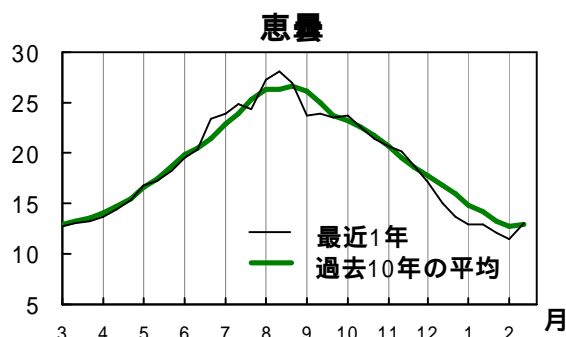
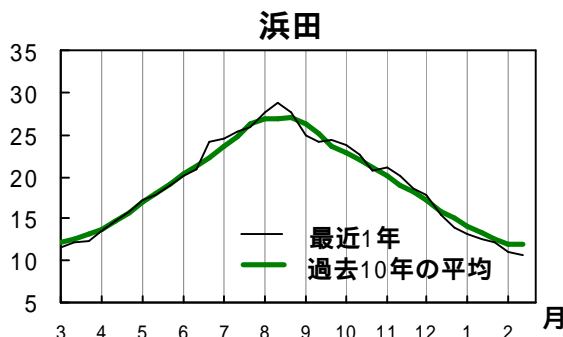
この他、カタクチイワシについては九州沿岸から日本海にかけて春季発生群の加入は良好であったものの、秋季発生群の加入は前年より少ないとされていることから、今後は平年並みに推移すると考えられます。ウルメイワシについては、九州沿岸から日本海にかけて漁獲が前年を下回っており、0歳魚(H17生まれ)の発生量も少ないことから平年を下回ると考えられています。マイ

ワシについては山陰沖ではここ3年間の漁獲は僅かながら増加傾向にあるものの、散発的に沿岸域で漁獲される程度であり、今後も低水準で推移すると考えられます。

《 1～2月の海況 》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	12.6	-0.7	やや低め
恵曇	12.6	-1.5	かなり低め

1月の月平均水温は、浜田・恵曇ともに低めに推移し、特に恵曇では例年より-1.5 とかなり低めとなりました。2月も全般的に低水温が続いています。



<大型クラゲ情報>

速報

2月中旬：定置・底びきなどで数個程度の入網はありますが、被害が出るほどの入網はなくなってきました。

2/6：定置網（多伎町）1500程度入網（3～5日間休漁していたため量が多い）、2/7：500個程度入網



2月の概況

例年、2月頃にはクラゲの入網はなくなりますが、今年は2月に入ってもまだ入網があり出雲部の定置では大量入網も報告されています。しかし、中旬には被害が出るほどの入網はなくなってきました。入網する個体は死んだものがほとんどです。

インターネットでクラゲ情報の提供を随時行っています。携帯・パソコンで下記をご覧ください。

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ik/>

《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、マサバ主体に195トン、総水揚金額は1,350万円でした。1統当りの漁獲量は65トン（平年(過去5年平均)の4割、前年の3割）、同水揚金額は450万円（平年の4割、前年の4割）と前月に引き続き低調に推移しました。これは主力のマアジが不漁だった（平年の7割、前年の3割）ことによります。西郷では、マアジ、マサバ主体に総漁獲量3,824トン、総水揚金額は2億6,094万円でした。1統当りの漁獲量は637トン（平年の2.5倍、前年の2倍）、同水揚金額は4,349万円（平年の1.8倍、前年の1.6倍）と好調に推移しました。これは12月とは逆に好天に恵まれて操業日数が多かった（平年の1.8倍）ことやサバ類の水揚げが好調（平年の3.5倍、前年の2.7倍）だったことによります。浦郷ではマアジ、マサバ主体に総漁獲量1,142トン、総水揚金額は7,049万円でした。1統当りの漁獲量は360トン（平年の2倍、前年の1.5倍）、同水揚金額は1,763万円（平年の1.6倍、前年の1.3倍）と好調に推移しました。これは西郷と同様に操業日数が多かった（平年の1.6倍）ことやマアジ、サバ類の水揚げが好調（それぞれ平年の2.6倍、2.2倍、前年の1.9倍、1.8倍）だったことによります。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船（5トン以上）の漁獲量は、スルメイカを中心に180トンで、平年の6割、前年の1.1倍、同水揚金額は6,387万円で、平年の7割、前年の7倍となりました。西郷のイカ釣船（5トン以上）の漁獲量はスルメイカ主体に10.2トンで、平年の3割、前年の3倍、同水揚金額は3,736万円で、平年の3割、前年の3倍でした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではイボダイ、スルメイカ、ヤリイカ、ソウハチが漁獲の中心でした。1統当り漁獲量では前年を2割

上回りましたが、水揚金額では1割下回りました。平年（過去10年平均）に対してはそれぞれ約4割（量）、約2割（金額）上回りました。カレイ類ではムシガレイが前年並みに留まりましたが、ソウハチは前年の約5倍の漁獲がありました。イカ類では、ヤリイカが好調で、前年の約10倍、平年の2倍の漁獲がありました。ケンサキイカは前年の1割以下に留まりました。

恵曇港ではアカガレイ、ソウハチが漁獲の中心でした。

【小型底びき網漁業】

大田市・和江漁協ともに、出漁日数が前年を8～9割上回ったため、漁獲量で約5割上回りましたが、水揚金額は1～4割程度の伸びに留まりました。大田市漁協の主な漁獲物はソウハチ、ニギスでした。ソウハチは前年同月の漁獲量を2.5倍上回りましたが、ニギスは8割程度に留まりました。

和江漁協ではソウハチ、アンコウが主に漁獲されました。ソウハチは前年同月の漁獲量の約3倍、アンコウは1.5倍の漁獲がありました。

【定置網漁業】

県東部は漁獲量で平年の3割、金額で平年の2割と低調でした。漁獲物はマアジ・クロマグロ・イカ類・サワラなどが中心でした。県西部では出漁日数が少なかったこともありましたが、漁獲量・金額共に平年の1割以下と極めて不調でした。隠岐では漁獲量で平年の4.4倍、金額で平年の3.3倍とすこぶる好調でした。これは島前地区でスルメイカが豊漁だったため、隠岐地区の定置の漁獲量の9割はスルメイカが占めています。

【釣・縄】

県東部はブリが豊漁で、漁獲量で平年の4.5倍、金額で平年の1.7倍と好調でした。県西部ではサワラ・メダイ・ブリを中心に漁獲量で平年の6倍、金額で平年の2.7倍と好調でした。隠岐ではメダイが漁獲の約半分を占め、その他スルメイカなどもあり漁獲量で平年の1.9倍、金額はほぼ平年並でした。

漁獲統計

平成18年1月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	23	マアジ、マサバ	8.5ト	195ト
	西郷	75	マアジ、マサバ	51.0ト	3,824ト
	浦郷	41	マアジ、マサバ	35.2ト	1,442ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	190	スルメイカ	950kg	180ト
	西郷	48	スルメイカ	213kg	10.2ト
沖合底びき網	浜田	21	イボダイ、スルメイカ、ヤリイカ、ソウハチ	17.6ト	369ト
	恵曇	19	アカガレイ、ソウハチ	X	X
小型底びき網	大田市	279	ソウハチ、ニギス	497kg	139ト
	和江	367	ソウハチ、アンコウ	597kg	219ト
定置網	浜田	24	ヤリイカ・ケンサキイカ	12 kg	0.3ト
	美保関	128	マアジ、カタクチイワシ、クロマグロ	282 kg	36.0ト
	浦郷	95	スルメイカ	454 kg	43.1ト
釣・縄	浜田	390	ブリ、メダイ	59 kg	22.9ト
	五十猛	117	メダイ、ブリ、カサゴ・メバル類	46 kg	5.4ト

：1隻（統）1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

：個人情報保護のため非公開

上記の漁獲情報の詳細をホームページで公開しています。

水産試験場ホームページの「月別漁模様」をご覧ください。

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>